

博士論文（要約）

論文題目 京城帝国大学の基礎的研究  
— 日本統治下朝鮮における帝国大学の制度・組織とその展開 —

氏名 通堂 あゆみ

# 京城帝国大学の基礎的研究

― 日本統治下朝鮮における帝国大学制度・組織とその展開 ―

東京大学大学院人文社会系研究科  
韓国朝鮮文化研究専攻（歴史文化）

通堂 あゆみ

# 目次

序章 . . . . . 1

研究の課題と視角

「植民地大学」の再検討

主な先行研究と本研究の視角

本研究の構成と主な利用史料

## ◆第一部 法文学部の制度・組織

第一章 組織・人事・学生動向から見る法文学部 . . . . . 17

はじめに

第一節 朝鮮への帝国大学法文学部設置

第一項 枢密院審議に見る法文学部設置理由

第二項 朝鮮人学生の法学志向

第二節 法文学部の教育・研究体制

第一項 講座配置

第二項 教員配置

第三節 京城帝国大学法文学部の教育と高等人材輩出

第一項 法文学部法学科の教育課程

第二項 東北・九州両帝国大学法文学部との比較

おわりに

表・注

第二章 朝鮮半島出身者の官界進出―京城帝国大学法文学部を中心に

はじめに

第一節 京城帝国大学像の再構成

第一項 学生構成から見る京城帝国大学

第二項 大学設立反対論と学生の就職問題

第二節 京城帝国大学と植民地官僚

第一項 京城帝国大学出身高文行政科合格者

第二項 朝鮮総督府への就職

第三節 朝鮮人高文行政科合格者との比較

おわりに

表・注

第三章 「傍系」学生の受け入れから見る法文学部の制度的展開―選科制度に注目して

はじめに

第一節 選科生制度の概要

第一項 選科生としての入学

..... 59

第二項 学士称号取得「バイパス」のしくみ

第二節 文科系学科における定員補充と選科制度

第一項 文科系学科の不人気

第二項 予科改編による選科制度の学士称号取得「バイパス」化

第三節 法文学部の同床異夢的状况

おわりに

図表・注

## ◆第二部 医学部の制度・組織

### 第四章 医学部における「医局講座制」の展開

はじめに

第一節 医局講座制について—京城帝大医学部の実例から

第二節 京城帝大医学部における医局講座制の展開

第一項 内科学講座

第二項 外科学講座

第三項 教授職と医局人事

第三節 帝国大学の「ジッツ」拡大

おわりに

表・注

第五章 博士学位授与機能から考察する医学部の「教室」

はじめに

第一節 学位取得と教室

第一項 学位授与数の確定作業

第二項 講座と教室

第三項 教室別学位取得状況

第二節 医学部「学閥」の再検討

第一項 「東大閥」と学位審査

第二項 東大閥／志賀閥の再検討

おわりに

表・注

..... 185

第六章 医師免許保有者の帝国内移動と京城帝国大学―専攻生制度に注目して

はじめに

第一節 医師免許保有者の移動と研究機会確保

第一項 専攻生の構成―医師免許保有者の移動

第二項 学位取得状況―研究の場と学位請求先の不一致

第二節 「教室」と専攻生―指導教授による論文提出先の違い

おわりに

表・注

..... 235

補論 京城帝国大学医学部における一九四五年八月一五日以降の博士学位認定について . . . . . 277

はじめに

第一節 終戦後における学位授与状況

第一項 国立公文書館所蔵「学位授与認可関係書類」について

第二項 終戦後授与学位数の推定と類型化

第二節 終戦後授与学位の実態

第一項 「解放博士」―誰が学位を申請したのか

第二項 誰が審査を行ったのか

おわりに

表・注

結章 . . . . . 319

結論

京城帝大の制度・組織

京城帝大に見る「内地」／「外地」間の連絡状況―帝国日本のピラミッド構造

課題と展望

主な参考文献 . . . . . 329

## 本文

本研究の内容は二〇一七年一〇月より五年以内に、学術書として刊行の予定である。

また、本研究には個人情報・プライバシー保護の観点からインターネット公表には不適切な箇所がある。第一章～第六章・補論の各章すべてにおいて、各種紳士録・同窓会名簿・公文書館所蔵資料等を利用し、京城帝国大学関係者や高等文官試験合格者・医師免許保有者等の個人の履歴や研究活動に関する情報を整理した表を収録している。これらの表を作成する際に利用したのは公刊されたものや公的機関が所蔵する歴史資料であるが、個別の情報を集積して個人の詳細な経歴を復元している。プライバシーの侵害を意図するものではないが、存命者にかかわる情報も一部含まれているため、インターネット上でのこうした情報の公表は差し控える。具体的には以下の表が該当する。

第一章 表 2-1、2-2

第二章 表 2、4-1、4-1 補足

第三章 表 1

第四章 表 2

第五章 表 1、4

第六章 表 4-1、7

補論 表 1、2、6

以上。



## 主な参考文献

### 史料

#### 【京城帝国大学関係】

〔定期刊行物（大学）〕

『京城帝国大学一覽』一九二七年四月～一九四三年三月発行

『京城帝国大学予科一覽』一九二七年か？～一九四四年八月発行

『京城帝国大学学報』一～二〇二（一九二七～一九四四年発行）

『会報』昭和四・六・七・八・一〇・一一・一四年度（京城帝国大学学友会、一九三〇～一九四〇年）

『京城帝国大学英文学会会報』一～一五（京城帝国大学英文学会、一九二九～一九三四年）

〔その他（大学）〕

『昭和六年三月 京城帝国大学例規』（一九三二年）、『昭和十二年六月 京城帝国大学例規』（一九三七年）

『教務例規集』（一九三六年か？）

『京城帝国大学医学部 篠崎内科ノ実際』（一九三一年）

『京城帝国大学医学部杉原薬物学教室研究報告』（一九三〇、一九三一年）、『杉原薬理学教室業績集』（一九三六～三七年）

『戦時科学叢書』一～四（一九四四年）

〔定期刊行物（同窓会）〕

『青丘』一～一四（旧京城帝国大学同窓会青丘倶楽部、一九七〇～一九七四年）

参考文献

『紺碧』一〜一四九（京城帝国大学・京城帝国大学予科同窓会、一九七四〜二〇〇六年）

〔その他（同窓会）〕

京城帝国大学創立五十周年記念誌編集委員会編

『紺碧遙かに——京城帝国大学創立五十周年記念誌』京城帝国大学同窓会、一九七四年

京城帝国大学理工学部開部四十五周年記念誌編集委員会

『遙かなり佛岩山 京城帝国大学理工学部開部四十五周年記念誌』

京城帝国大学理工学部開部四十五周年記念誌編集委員会、一九八八年

京城帝国大学・京城帝国大学予科同窓会

『京城帝国大学同窓会 会員名簿』

〔未公刊史料〕

学習院大学東洋文化研究所友邦文庫「京城帝国大学教員履歴書綴人名簿」

国立公文書館「京城帝国大学 学位授与認可関係書類」

学位授与認可 昭和一九年 第七冊

昭和二〇年 第一冊・第三冊・第六冊・第一四冊・第一五冊・第一七冊

第一八冊・第二一冊・第二三冊・第二五冊・第二六冊・第二八冊

第二九冊・第三〇冊・第三三冊・第三四冊・第三六冊・第三九冊

第四二冊

昭和二一年 第二八冊

参考文献

「公刊史料」

『学制百年史（資料編）』（文部省、一九七二年）

渡部学・阿部洋編『日本植民地教育政策史料集成（朝鮮篇）』第四六卷、龍溪書舎、一九八九年

「京城帝大関係者著作物」

安倍能成 『我が生ひ立ち』岩波書店、一九六六年

大澤勝 『長生きの科学―東洋医学はあなたを守る』東洋経済新報社、一九五七年

『生薬ものがたり』日本健康体操会健康道社、一九六三年

「京城大学医学部時代の回顧」〔『東洋文化研究』一四、二〇一二年〕

清宮四郎 『外地法序説』（有斐閣、一九四四年）

佐藤剛藏 『朝鮮医育史』佐藤先生喜寿祝賀会、一九五六年

佐中秋良 「急激死亡人屍血の流動性獲得に至る経過に就て」〔『日本法医学雑誌』七一、一九五三年〕

佐中秋良・佐藤武雄・松本恭一

「急激死亡人屍流動性血液に関する研究」〔『信州大学紀要』(三) 一九五三年〕

志賀潔 『志賀潔 或る細菌学者の回想』日本図書センター、一九九七年

杉原徳行 『朝鮮人蔘札賛』朝鮮総督府専売局、一九二九年

杉山二郎 「杉山内科医院」(菅井寛『鞍手郡医療史』自分史図書館、二〇〇〇年)

高木市之助 『国文学五十年』(『高木市之助全集』九、講談社、一九七七年。初出は一九六七年、岩波書店刊)

竹重一正 『踏み出せば道に…私の履歴書』新周南新聞社、一九九一年

田中正四 『瘦骨先生紙屑帳』金剛社、一九六一年

参考文献

- 徳光美福 「ふたむかし前の思ひ出」(『男也会会誌』第一四・一五年、東北帝国大学医学部病理学教室男也会、一九四〇年)
- 中西政周 「京城帝国大学医学部生理学教室史(第一生理学教室)」(『日本生理学会』三二―九、一九七〇年)
- 長谷川進 『朝鮮生まれの引揚者の雑記』私家版、一九九〇年
- 松岡修太郎 『外地法(新法学全集 五卷行政法分冊)』日本評論社、一九三六年
- 安田寛之 『波浪を越えて』私家版、一九七三年
- 〔京城帝大関係者人物情報〕 ※法文学部講座担当者については第一章【表2】を参照
- ・佐藤武雄
- 「故佐藤武雄先生をしのぶ」(『犯罪学雑誌』二四―四、一九五八年)
- ・徳光美福
- 下田光造 「徳光教授の追悼」(『米子医学雑誌』四―三/四、一九五三年)
- 浅越嘉威 「弔辞」(『米子医学雑誌』四―三/四、一九五三年)
- ・中西政周
- 今井雄介、西中弘 「中西政周大阪医科大学名誉教授略歴」(『日本生理学雑誌』三八、一九七六年)
- 「中西政周大阪医科大学名誉教授を偲んで」(『日本生理学雑誌』三八、一九七六年)
- ・服部宇之吉
- 服部先生古稀祝賀記念論文集刊行会編 『服部先生古稀祝賀記念論文集』富山房、一九三六年
- ・水島治夫
- 「水島治夫先生にきく」(『公衆衛生』二七―七、一九六三年)

【定期刊行物・官報】『朝鮮総督府官報』

【定期刊行物・新聞】

〔日本語〕 『京城日報』、『帝国大学新聞』、『東京朝日新聞』

〔韓国・朝鮮語〕 『東亜日報』、『毎日申報』、『朝鮮日報』、『中央日報』

【定期刊行物・雑誌】

〔日本語〕 『岡山医学会雑誌』、『受験界』、『受験と学生』、『受験旬報』、『青丘学叢』、『朝鮮』、『朝鮮行政』、『朝鮮研究月報』

『朝鮮及満洲』、『治療薬報』、『日本医事新報』、『文教の朝鮮』

〔韓国・朝鮮語〕 『三千里』

【学校史・同窓会・団体資料】

〔一覽類〕

『大阪帝国大学一覽』、『京城医学専門学校一覽』、『セブランス連合医学専門学校一覽』、『台北帝国大学一覽』、『東京帝国大学一覽』

『東北帝国大学一覽』、『長崎医科大学一覽』、『名古屋帝国大学一覽』

〔学校史関係〕

岡山大学医学部百年史編集委員会編『岡山大学医学部百年史』岡山大学医学部創立百周年記念会、一九七二年

九州大学創立五十周年記念会編『九州大学五十年史（通史編）』九州大学創立五十周年記念会、一九六七年

九州大学七十五年史編集委員会編『九州大学七十五年史（通史編、史料編上・下、別巻）』九州大学出版会、一九八九―一九九二年

- 九州大学医学部（古野純典編）『九州大学医学部百年史』九州大学医学部創立百周年記念事業後援会、二〇〇四年
- 慶應義塾編『慶應義塾百年史（別巻 大学編）』慶應義塾、一九六二年
- 東北大学編『東北大学五十年史（下）』東北大学、一九六〇年
- 東北大学百年史編集委員会編『東北大学百年史（部局史一、資料一）』東北大学研究教育振興財団、二〇〇三年
- 東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史（通史一～三）』東京大学出版会、一九八四～一九八六年
- 百年のあゆみ編集委員会編集『東京大学医学部外科学第二講座―百年のあゆみ』東京大学医学部第二外科学教室、一九九三年
- 東大第一外科同窓会編集『東京大学第一外科開講百年記念誌―東大第一外科の歩み（第四集）』東大第一外科同窓会、一九九三年
- 東京帝国大学医学部病理学教室五十周年記念会編
- 『東京帝国大学病理学教室五十年史』上下、東京帝国大学医学部病理学教室五十周年記念会、一九三九年
- 長崎大学医学部創立150周年記念会編
- 『長崎大学医学部創立一五〇周年記念誌―近代西洋医学教育発祥から現在まで』
- 長崎大学医学部創立150周年記念会編、二〇〇九年
- ソウル大学校医科大学史編纂委員会編
- 『ソウル大学校医科大学史 1885―1978』ソウル大学校医科大学史編纂委員会、一九七八年
- （\*서울大學校醫科大學史編纂委員會編『서울大學校 醫科大學史 1885―1978』
- 서울大學校醫科大學史編纂委員會、一九七八年）
- 〔同窓会・団体関係〕
- 『男也会会誌』第一二年、第一四・一五年、男也会（東北帝国大学医学部病理学木村男也教室）、一九三八年・一九四〇年
- 学士会編『会員氏名録』

- 『北里研究所一覽（大正七年）』北里研究所、一九一八年
- 『東雲』一九八〇年号、東雲会（大邱医学専門学校同窓会）、一九八〇年
- 『朝鮮総督府医院二十年史』朝鮮総督府医院、一九二八年
- 『東京帝国大学医科大学並同大学医学部卒業生名簿（從明治九年至大正十一年）』一九二二年  
鉄門俱樂部『氏名録』各年度
- 『仁旺ヶ丘―京城中学卒業五十周年記念誌』京喜会（京城中学同窓会）「仁旺ヶ丘」発行実行委員会、一九八一年
- 『馬頭ヶ丘―京城医学専門学校昭和十二年卒業五十周年記念誌』昭十二会（京城医学専門学校同窓会）一九九〇年
- 【その他】
- 『中等教員・実業教員・高等教員文検受験要覧』文教書院、一九二五年
- 『朝鮮功労者銘鑑』民衆時論社朝鮮功労者銘鑑刊行会、一九三六年
- 『朝鮮人事興信録（昭和一〇年版）』朝鮮新聞社内朝鮮人事興信録編纂部、一九三五年
- 『帝国大学出身名鑑』交友調査会、一九三七年
- 『帝国大学年鑑』帝国大学新聞社、一九三八年度版
- 『日本医学博士録』東西医学社、一九四四年
- 『日本博士録』教育行政研究所、一九五六年
- 大野謙一『朝鮮問題管見』朝鮮教育協会、一九三六年
- 朝鮮新聞社編『朝鮮統治の回顧と批判』朝鮮新聞社、一九三六年
- 中島千太郎『改正令による高等試験の受け方と其問題』博文堂出版、一九三〇年
- 野口絢齋（編著）『官立大学傍系者独学者入学受験法』大明堂書店、一九三五年

森山正雄『東京自活勉学法―苦学生と独学者の為に』啓文社、一九二五年

博士学位論文

〔日本語〕

鄭圭永 「京城帝国大学に見る戦前日本の高等教育と国家」東京大学大学院教育学研究科博士論文、一九九五年

朴己煥 「近代日韓文化交流史研究―韓国人の日本留学」大阪大学大学院文学研究科博士論文、一九九八年

朴光賢 「京城帝国大学と「朝鮮学」」名古屋大学大学院人間情報学研究所博士論文、二〇〇三年

橋本淳治 「帝国大学への入学試験における受験資格制限の緩和とその帰結

―〈傍系出身者に対する一つの考察〉とその正否の検証結果」京都大学大学院人間・環境学研究科博士論文、二〇〇四年

〔韓国語〕

李興基 「韓国近代医師職の形成過程（1885～1945）」ソウル大学校大学院博士論文、二〇一〇年

（\*이흥기 「한국 근대 醫師職의 형성과정（1885～1945）」서울대학교대학원、二〇一〇年）

鄭駿永 「京城帝国大学と植民地へゲモノ」ソウル大学校大学院博士論文、二〇〇九年

（\*정준영 「경성제국대학과 식민지 헤게모니」서울대학교대학원 사회학과 二〇〇九年）

研究書・単行本類

〔日本語〕

浅野豊美 『帝国日本の植民地法制―法域統合と帝国秩序』名古屋大学出版会、二〇〇八年

天野郁夫 『学歴の社会史―教育と日本の近代』新潮社、一九九二年



参考文献

- 『「増補」試験の社会史―近代日本の試験・教育・社会』平凡社、二〇〇七年
- 『大学の誕生』上下、中央公論新社、二〇〇九年、
- 『高等教育の時代』上下、中央公論新社、二〇一三年、
- 『新制大学の誕生―大衆高等教育への道』上下、名古屋大学出版会、二〇一六年
- 『帝国大学―近代日本のエリート育成装置』中央公論新社、二〇一七年
- P・G・アルトバック/V・セルバトナム編（馬越徹・大塚豊監訳）
- 『アジアの大学―従属から自立へ』玉川大学出版部、一九九三年
- R・D・アンダーソン（安原義仁・橋本伸也翻訳）
- 『近代ヨーロッパ大学史―啓蒙期から1914年まで』昭和堂、二〇一二年
- 飯島渉 『マラリアと帝国―植民地医学と東アジアの広域秩序』東京大学出版会、二〇〇五年
- 猪飼周平 『病院の世紀の理論』有斐閣、二〇一〇年
- 泉孝英編 『日本近現代医学人名辞典 1868-2011』医学書院、二〇一二年
- 伊藤隆監修・百瀬孝著
- 『事典 昭和戦前期の日本―制度と実態』吉川弘文館、一九九〇年
- 稲葉継雄 『旧韓国―朝鮮の「内地人」教育』九州大学出版会、二〇〇五年
- 井上學 『日本反帝同盟史研究―戦前期反戦・反帝運動の軌跡』（不二出版、二〇〇八年）
- 李曉辰 『京城帝国大学の韓国儒教研究―「近代知」の形成と展開』勉誠出版、二〇一六年
- 岩田弘三 『近代日本の大学教授職―アカデミック・プロフェッションのキャリア形成』玉川大学出版部、二〇一一年
- 潮木守一 『京都帝国大学の挑戦』講談社、一九九七年
- 馬越徹 『韓国近代大学の成立と展開―大学モデルの伝播研究』名古屋大学出版会、一九九五年

参考文献

- 岡本真希子 『植民地官僚の政治史―朝鮮・台湾総督府と帝国日本』三元社、二〇〇八年
- 加藤聖文 『「大日本帝国」崩壊―東アジアの1945年』中央公論新社、二〇〇九年
- 金川英雄 『日本の精神医療史―明治から昭和初期まで』青弓社、二〇一二年
- 上坪隆 『水子の譜―引揚孤児と犯された女たちの記録』徳間書店、一九七九年
- ウイリアム K・カミングス（岩内亮一・友田泰正訳）  
『日本の大学教授』至誠堂、一九七二年
- 川上武 『日本の医者―現代医療構造の分析』勁草書房、一九六一年
- E・H・キンモンス（廣田照幸他訳）  
『立身出世の社会史』玉川大学出版部、一九九五年
- 小風秀雅 『アジアの帝国国家（日本の時代史 二三）』吉川弘文館、二〇〇四年
- 酒井哲哉・松田利彦編  
『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、二〇一四年
- 坂野徹 『帝国日本と人類学―一八八四―一九五二年』勁草書房、二〇〇五年
- 坂野徹編 『帝国を調べる―植民地フィールドワークの科学史』勁草書房、二〇一六年
- 坂野徹・慎蒼健編  
『帝国の視角／死角―（昭和期）日本の知とメディア』
- 竹内洋 『学歴貴族の栄光と挫折（日本の近代 一二）』中央公論新社、一九九九年
- 全京秀（岡田浩樹・陳大哲訳）  
『韓国人類学の百年』風響社、二〇〇四年
- 坪井幸生 『ある朝鮮総督府警察官僚の回想』草思社、二〇〇四年

参考文献

- 寺崎昌男 『増補版 日本における大学自治制度の成立』 評論社、二〇〇〇年
- 中生勝美 『近代日本の人類学史―帝国と植民地の記憶』 風響社、二〇一六年
- 中野実 『近代日本大学制度の成立』 吉川弘文館、二〇〇三年
- 西山勝夫編著 『戦争と医学』 文理閣、二〇一四年
- 秦郁彦 『官僚の研究―不滅のパワー・1868―1983』 講談社、一九八三年
- 秦郁彦・戦前期官僚制研究会編 『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』 東京大学出版会、一九八一年
- 旗田巍編 『シンポジウム 日本と朝鮮』 勁草書房、一九六九年
- 保阪正康 『大学医学部―80大学医学部・医科大学の実態』 現代評論社、一九八一年
- 松本武祝 『朝鮮農村の植民地近代経験』 社会評論社、二〇〇五年
- 森田芳夫 『朝鮮終戦の記録―米ソ両軍の進駐と日本人の引揚』 巖南書店、一九六四年
- 山田浩之 『教師の歴史社会学―戦前における中等教員の階層構造』 晃洋書房、二〇〇二年
- 山本俊一 『東京大学医学部紛争私観』 本の泉社、二〇〇三年
- 湯川次義 『近代日本の女性と大学教育―教育機会開放をめぐる歴史』 不二出版、二〇〇三年
- 〔韓国語〕
- 奇昌徳 『韓国近代医学教育史』 アカデミア、一九九五年（\*奇昌徳 『韓國近代醫學研究史』 아카데미아、一九九五年）
- 金根培 『韓国近代科学技術人力の出現』 文学と知性社、二〇〇五年
- （\*김근배 『한국 근대 과학기술인력의 출현』 문학과 지성사、二〇〇五年）
- 大韓医学会 『韓国現代医学史』 大韓医学会、一九八八年（\*大韓醫學會 『韓國現代醫學史』 大韓醫學會、一九八八年）

- 朴ウンギョン 『日帝下朝鮮人官僚研究』 学民社、一九九九年 (박은경 『일제하 조선인 관료 연구』 학민사 一九九九年)  
 ソウル大学校奎章閣韓國国学研究院編 『韓日国際WORKSHOP：帝国の学知と京城帝国大学の教授たち』 二〇〇七年  
 (\*서울대학교 규장각한국학연구원  
 『韓日 국제 WORKSHOP : 제국의 學知와 경성제대의 교수들』 서울대학교 규장각한국학연구원, 二〇〇七年)  
 ソウル大学校医科大学史編纂委員會  
 『ソウル大学校医科大学史資料集 I 1885—1945』 ソウル大学校医科大学史編纂委員會、二〇〇二年  
 (\*서울대학교 의과대학사 편찬위원회  
 『서울대학교 의과대학사 자료집 I 1885—1945』 서울대학교 의과대학사 편찬위원회, 二〇〇二年)  
 ソウル大学校韓国医学人物史編纂委員會  
 『韓国医学人物史』 太学社、二〇〇八年  
 (\*서울대학교 한국의학인물사 편찬위원회 『한국의학인물사』 태학사, 二〇〇八年)  
 ユ・ヒョンシク  
 『韓国近代医学研究史 1910—1945』 韓国医学院、二〇一一年  
 (\*유형식 『한국근대의학연구사 1910—1945』 한국의학학회, 二〇一一年)  
 尹海東 『植民地近代のパラドックス』 ヒューマニスト、二〇〇七年  
 (\*윤해동 『식민지근대의 패러독스』 휴머니스트, 二〇〇七年)  
 李忠雨 『京城帝国大学』 多楽園、一九八〇年 (\*이충우 『京城帝國大學』 多楽園, 一九八〇年)  
 李忠雨・崔鍾庫  
 『京城帝国大学再考』 プルンササン、二〇一三年 (\*이충우・최종고 『다시 보는 경성제국대학』 푸른사상, 二〇一三年)  
 李忠浩 『日帝暗黒期醫師教育史』 国学資料院、二〇一一年 (\*李忠浩 『일제 암흑기 의사 교육사』 국학자료원, 二〇一一年)

『日帝統治期韓国醫師教育史研究』 国学資料院、一九九八年

(\*李忠浩 『日帝統治期韓國醫師教育史研究』 國學資料院、一九九八年)

全鍾暉 『残したい話―医窓夜話』 医学出版社、一九九四年

(\*전중휘 『남기고 싶은 이야기 醫窓夜話』 의학출판사、一九九四年)

鄭根植他編 『植民権力と近代知識…京城帝国大学研究』 ソウル大学校出版文化院、二〇一一年

(\*정근식 외 『식민권력과 근대지식…경성제국대학 연구』 서울대학교출판문화원 二〇一一年)

丁仙伊 『京城帝国大学研究』 文音社、二〇〇二年 (\*정선이 『경성제국대학 연구』 문음사 二〇〇二年)

朱槿源 『含春苑の回想』 暁文社、一九八三年 (\*朱槿源 『含春苑의 回想』 曉文社、一九八三年)

韓沁錫 『冠岳を眺めて―回顧録』 一潮閣、一九八一年 (\*韓沁錫 『冠岳을 바라보며 回顧録』 一潮閣、一九八一年)

革新出版社編 『民族正氣の審判―反民者解剖版』 革新出版社、一九四九年

(\*革新出版社編 『民族正氣의 審判―反民者解剖版』 革新出版社 一九四九年)

〔中国語〕

葉碧苓 『學術先鋒 台北帝國大學與日本南進政策之研究』 稻鄉出版社、二〇一〇年

研究論文

〔日本語〕

阿部洋 『日本統治下朝鮮の高等教育―京城帝国大学と私立大学設立運動をめぐって』 (『思想』、一九七一年)

『解放』 前日本留学の史的展開過程とその特質」 (『韓』 五―一二、一九七六年)

天野郁夫 「学位制度の変遷」 (天城勲編 『エリートの大学・大衆の大学』 サイマル出版、一九九七年)

- 石川健治 「コスモス―京城学派公法学の光芒」  
〔岩波講座『「帝国」日本の学知』第一巻「帝国」編成の系譜、岩波書店、二〇〇六年〕  
―― 「京城の清宮四郎―『外地法序説』への道」  
〔酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、二〇一四年〕
- 石川裕之 「ソウル大学予科の設置経緯およびその役割に関する研究」〔『畿央大学紀要』九―二、二〇一二年〕  
―― 「国立ソウル大学校医科大学の成立過程に見る植民地高等教育の「人的遺産」」  
〔酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、二〇一四年〕
- 泉靖一 「旧植民地帝国大学考」〔『中央公論』八五―七、一九七〇年〕
- 板垣竜太・戸邊秀明・水谷智 「日本植民地研究の回顧と展望―朝鮮史を中心に」〔『社会科学』四〇―二、二〇一〇年〕
- 稲葉継雄 「京城帝国大学予科について―「朝鮮的要素」と「内地的要素」を中心に」〔『大学院教育学研究紀要』七、二〇〇四年〕
- 李吉魯 「植民地朝鮮の高等工業教育に関する一考察―京城帝国大学理工学部の成立との関連で」  
〔『教育学雑誌』四〇、二〇〇五年〕
- 李賢一 「京城帝国大学医学部の研究活動―その学術誌の分析を中心に」〔『アジア太平洋研究科論集』一七、二〇〇九年四月〕  
―― 「植民地朝鮮における医学研究の軌跡―京城医学専門学校を中心に」〔『アジア太平洋研究科論集』一九、二〇一〇年五月〕
- 任正嫻 「京城帝国大学に関する植民地政策史的研究の現状と課題」  
〔『朝鮮大学校 学報（日本語版）』一〇、朝鮮大学校、二〇一〇年〕
- 岩田弘三 「帝国大学教授のリクルート源」〔『名古屋大学教育学部紀要 教育学科』三二、一九八四年〕  
―― 「大学助手職に関する歴史的研究」〔『教育社会学研究』五六、一九九五年〕
- 馬越徹 「京城帝国大学予科に関する一考察」〔『大学論集』五、一九七七年〕

- 江藤裕之他 「医療者間で使われるドイツ語隠語の造語法に関する考察」(『長野県看護大学紀要』四、二〇〇二年)
- 岡本拓司 「京城帝国大学と科学」(『科学史・科学哲学』一一、一九九三年)
- 大村裕 「我が国の神経生理学の黎明期」(『日本生理学雑誌』七一―一、二〇〇九年)
- 北垣信太郎 「東京帝国大学法科大学卒業生の進路分析」(『東京大学史紀要』二二、東京大学史史料室、二〇〇四年)
- 北原龍二 「日本家業医療史文献目録Ⅰ」(『横浜国立大学人文紀要 第一類哲学・社会科学』三八、一九九二年)
- 「医学校教室考(その一)」(『横浜国立大学人文紀要 第一類哲学・社会科学』四三、一九九七年)
- 「医学校教室論Ⅰ」(『桜花学園大学人文学部研究紀要』五、二〇〇三年)
- 金容徳 「京城帝国大学(一九二四―四五)の教育と韓人学生」
- 「金容徳、宮嶋博史編『近代交流史と相互認識Ⅱ―日帝支配期』慶應義塾大学出版会、二〇〇四年)
- 「京城帝国大学韓人エリートの行路―高等文官試験合格者の親日および独裁体制擁護と関連して」
- 「金容徳、宮嶋博史編『近代交流史と相互認識Ⅲ―一九四五年を前後して』、慶應義塾大学出版会、二〇〇六年)
- 金昌祿 「尾高朝雄と植民地朝鮮」(酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、二〇一四年)
- 駒込武 「『帝国史』の射程」(『日本史研究』四五二、二〇〇〇年)
- 所澤潤 「専門学校卒業者と台北帝国大学―もう一つの大学受験世界」(『年報 近代日本研究』一九、一九九七年)
- 所澤潤 「聴取り・解説・註」・泉新一郎「口述」
- 「聴取り調査…外地の進学体験 台北師範附属小から台北高校、台北帝大を経て内地の帝大に編入」
- 「『入学試験の制度及び試験問題の分析に基づく近代日本の学力の歴史的研究』平成二年度文部省科学研究費補助金(一般研究C) 課題番号〇一五一〇一四〇 研究成果報告書「研究代表者…稲垣忠彦」、一九九三年)
- 所澤潤 「聴取り・編集・解説・註」・陳定堯「口述」
- 「聴取り調査…外地の進学体験(Ⅳ) 樺山小から、台北三中、台北帝大豫科、台北帝大医学部を経て、台湾大学医学院

慎蒼健  
卒業」〔群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編〕四六、一九九七年）  
「植民地衛生学に包摂されない朝鮮人―一九三〇年代朝鮮社会の「謎」から」

〔坂野徹・慎蒼健編著『帝国の視角／死角―（昭和期）日本の知とメディア』青弓社、二〇一〇年）  
「フィールドワークと実験室科学の接合」

〔坂野徹編『帝国を調べる―植民地フィールドワークの科学史』勁草書房、二〇一六年）

鈴木貫太郎  
「東大医学部」〔中央公論〕一九五一年五月）

関正夫  
「戦前期大学教育のカリキュラムに関する史的考察―帝国大学における法学・医学教育を中心として」

〔『大学論集（広島大学高等教育開発センター）』一一、一九八二年）

全京秀  
〔板垣竜太訳）

「赤松智城の学問世界に関する一考察」〔『韓国朝鮮の文化と社会』四、二〇〇五年）

―――  
〔太田心平訳）

「植民地の帝国大学における人類学的研究―京城帝国大学と台北帝国大学の比較」

〔岸本美緒編『岩波講座・「帝国」日本の学知』第三卷東洋学の磁場、岩波書店、二〇〇六年）

―――  
〔宮原葉子訳）

「京城帝国大学の学術調査と「京城学派」の誕生―人類学分野にフォーカスを合わせて」

〔『朝鮮学報』二二四、二〇一〇年）

鄭駿永  
「京城帝大における「大学自治」の試みとその限界」

〔『植民地朝鮮と帝国日本―民族・都市・文化（アジア遊学一三八）』、二〇一〇年）

陳延媛  
「植民地で帝国を生きぬく―台湾人医師の朝鮮留学」

〔松田利彦・陳延媛編『地域社会から見る帝国日本と植民地―朝鮮・台湾・満洲』思文閣出版、二〇一三年）



- 通堂あゆみ  
「京城帝国大学時代の回顧（解説）」（『東洋文化研究』一四、二〇一二）  
「東京帝国大学教授・小倉進平の京城帝国大学教授兼任について（解説）」  
（『小倉進平関係文書目録—学習院大学東洋文化研究所蔵（調査研究報告NO.60）—  
学習院大学東洋文化研究所、二〇一六年）
- 寺崎昌男  
「大学の内部組織を考える」（『講座日本の学力 別巻一 大学教育』日本標準、一九七九年）
- 永島広紀  
「日本統治期の朝鮮における〈史学〉と〈史料〉の位相」（『歴史学研究』七九五、二〇〇四年）  
「朝鮮半島からの引揚と「日本人世話会」の救護活動」  
（増田弘編著『大日本帝国の崩壊と引揚・復員』慶應義塾大学出版会、二〇一二年）  
「特集 「帝国大学の〈内〉と〈外〉にあたって」（『九州史学』一六七、二〇一四年）
- 「帝国大学「法文学部」の比較史的検討—内外地・正系と傍系・朝鮮人学生」（『九州史学』一六七、二〇一四年）  
「京城帝国大学の「アジア調査」に関する覚え書き—後発帝国大学における「附置研究所」」  
（藤岡健太郎「研究代表者」『帝国大学のアジア調査研究—九州帝国大学を中心に』  
平成二四—二六年度科学研究費助成事業基盤研究（C）研究成果報告書…二四五三〇九六一、二〇一五年）
- 並木真人  
「植民地期朝鮮人の政治参加について—解放後史との関連において」（『朝鮮史研究会論文集』三一、一九九三年）  
「植民地期朝鮮政治・社会史研究に関する試論」（『朝鮮文化研究』六、東京大学、一九九九年）  
「朝鮮における『植民地近代性』・『植民地公共性』・対日協力—植民地政治史・社会史研究のための予備的考察」  
（『国際交流研究』五、フェリス女学院大学、二〇〇三年）
- 西山勝夫  
「京城帝国大学医学部の博士学位の授与について—物江敏夫朝鮮軍管区貿易部長の場合—」  
（『15年戦争と日本の医学医療研究会編『戦争・731と大学・医科大学』文理閣、二〇一六年）  
「戦後における台北帝国大学の医学博士の学位授与」

- （15年戦争と日本の医学医療研究会編『戦争・731と大学・医科大学』文理閣、二〇一六年）
- 朴己煥  
「旧韓末と併合初期における韓国人の日本留学」『近代日本研究』一四、一九九七年）
- 橋本鉦市  
「戦前期における「医学博士」の社会学的分析」（坂井建雄編『日本医学教育史』東北大学出版会、二〇一二年）
- 橋本淳治  
「帝国大学における予科の修了と本科への入学―予科における専門準備教育 予科修了者数と本科入学者数」  
（『現代文明』「京都大学大学院人間・環境学研究所池田研究室」五、二〇〇四年）
- 橋本伸也  
「大学とはなにか―近代ヨーロッパ大学史からの応答？」（『現代思想』四三―一七、二〇一五年）
- 土生木精一  
「学位制度の変遷と学位授与状況」『学術月報』二二―六、一九六九年）
- 平木實  
「朝鮮学会の創立経緯と天理大学朝鮮学科」『朝鮮社会文化史研究Ⅱ』阿吽社、二〇〇一年）
- 富士原雅弘  
「帝国大学と旧植民地の大学における女性受け入れ問題」『教育制度研究紀要』三九、二〇〇八年）
- 白永瑞（趙慶喜訳）  
「想像のなかの差異、構造のなかの同一―京城帝大と台北帝大の比較からみる植民地近代性」  
（『現代思想』三〇―二、二〇〇二年）
- ―――  
「京城帝大の内と外―韓国学術史の再認識」  
（東北大学高等教育開発推進センター編『植民地時代の文化と教育―朝鮮・台湾と日本』東北大学出版会、二〇一三年）
- 保阪正康  
「変容する医局講座制」『世界』四六三、一九八四年）
- ホン・ソンジュ（宮川卓也訳）  
「京城大学理工学部の教授陣 一九四五・八一―一九四六・八一―京城帝国大学とソウル大学校の関係」  
（『科学史研究』第Ⅱ期 四八「二四九」、二〇〇九年）
- 松田利彦  
「植民地大学比較史研究の可能性と課題」（酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、二〇一四年）  
「京城帝国大学の創設」（酒井哲哉・松田利彦編『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、二〇一四年）

- 御崎隆 「教養としての医者語 第九回 大学にて」(『週刊医学界新聞』二六九九、二〇〇六年九月)
- 宮川清 「和合卯太郎信州大学名誉教授を偲んで」(『日本生理学雑誌』三三、一九七一年)
- 森岡ゆかり 「台北帝国大学の女子学生―大森政寿、山根敏子を中心に」(『大学史研究』一七、二〇〇一年)
- 森田芳夫 「ソウル大学図書館にある城大関係図書―とくに医学博士学位論文について」(『紺碧』七四、一九八一年)
- 山本美穂子 「北海道帝国大学農学部の選科制度について」(『北海道大学大学文書館年報』四、二〇〇九年)
- ――― 「北海道帝国大学の専攻生制度について」(『北海道大学大学文書館年報』九、二〇一四年)
- 尹海東(藤井たけし訳)  
「植民地認識の「グレーゾン」―日帝下の「公共性」と規律権力」(『現代思想』三〇―六、二〇〇二年)  
――― (小志戸前宏茂訳)  
「植民地官僚から見た帝国と植民地」(『東洋文化研究』一一、二〇〇九年)
- 横山尊 「九州帝大医学部における民族衛生学・植民衛生学講座―戦前・戦後の水島治夫の学問から」  
(『九州史学』一六七、二〇一四年)
- 吉田光男 「大韓帝国期ソウルの住民移動」(『朝鮮文化研究』一、一九九四年)
- 劉書彦 「京城帝国大学法文学部と台北帝国大学文政学部におけるアカデミックな研究構造―教員人事を中心に」  
(『日本学と台湾学』八、二〇〇九年)
- ――― 「京城・台北両帝国大学における理・工学部の研究体制の形成―学部構成・教員人事を中心に」  
(『現代台湾研究』三七、二〇一〇年)
- 渡辺晴香他 「日韓生薬学交流―杉原徳行の業績と評価」(『日本医史学雑誌』四八―二、二〇〇二年)

〔韓国語〕

- 姜明淑 「一九四五～一九四六年の京城大学に関する試論的研究」(『教育史学研究』一四、二〇〇四年)
- (\*강명숙 「1945～1945년의 경성대학에 관한 시론적 연구」『교육사학연구』一四、二〇〇四年)
- 奇昌徳 「京城帝国大学医学部」(『医史学』一一、一九九二年)
- (\*奇昌徳 「京城帝國大學醫學部」(『醫史學』一一、一九九二年)
- 金オクジュ 「京城帝大医学部の体質人類学」(『医史学』一七―二、二〇〇八年)
- (\*김옥주 「경성제대 의학부의 체질인류학 연구」(『醫史學』一七―二、二〇〇八年)
- 金テホ 「〈独学医学博士〉の自手成家記―眼科医師公炳禹(1907―1995)を通して探る日帝強占期医療界の断面」(『医史学』二二―三、二〇一三年)
- (\*김태호 「〈독학 의학박사〉의 자수성가기―안과 의사 공병우(1907―1995)를 통해 살펴본 일제강점기 의료계의 단면」(『醫史學』二二―三、二〇一三年)
- 金鎬逸 「日帝下民立大学設立運動に対する一考察」(『中央史論』一、一九七二年)
- (\*金鎬逸 「日帝下 民立大學設立運動에 對한 一考察」『중앙사론』一、一九七二年)
- 孫仁銖 「一九二〇年「朝鮮民立大学」設立に関する研究」(『教育学研究』五一―一、一九六七年)
- (\*孫仁銖 「1920年代 「朝鮮民立大學」設置에 관한 研究」『教育學研究』五一―一、一九六七年)
- 愼蒼健 「京城帝国大学に於ける漢藥研究の成立」(『社会と歴史』七六、二〇〇七年)
- (\*신창건 「경성제국대학에 있어서 한약연구의 성립」(『사회와 역사』七六、二〇〇七年)
- 李基東 「日帝下の韓国人官吏たち」(『新東亜』一九八五年三月号)
- (\*李其東 「日帝下の 韓國人官吏들」(『新東亞』一九八五年三月호)
- 李仁 「植民教育に対する〈民立大学〉運動」(『新東亜』一九六九年一〇月号)、

- (\*李仁 「植民教育에 맞선 〈民立大學〉 운동」(『新東亞』一九六九年一〇월호)
- 李ジュンシク 「日帝強占期の大学制度と学問体系―京城帝大の〈朝鮮語文学科〉を中心に」(『社会と歴史』六一、二〇〇二年)
- (\*이준식 「일제 강점기의 대학 제도와 학문 체계―경성제대의 〈조선어문학과〉를 중심으로」(『사회와 역사』六一、二〇〇二年)
- 張世胤 「日帝の京城帝国大学設立と運営」(『韓国独立運動史研究』六、一九九二年)
- (\*장세윤 「日帝의 京城帝國大學 設立과 운영」(『한국독립운동사연구』六、一九九二年)
- 「日帝下高等試驗出身官僚と解放後の権力エリート」(『歴史批評』二三、一九九三年)
- (\*장세윤 「일제하 고문시험 출신자와 해방후 권력엘리트」(『역사비평』二三、一九九三年)
- 「京城帝国大学の韓国人卒業生と高等文官試験」(『郷土ソウル』六九、二〇〇七年)
- (\*장세윤 「경성제국대학의 한국인 졸업생과 고등문관시험」(『郷土서울』六九、二〇〇七年)
- 張信 「日帝下朝鮮人高等官僚の形成とアイデンティティ―高等文官試験行政下合格者を中心に」(『歴史と現実』六三、二〇〇七年)
- (\*장신 「일제하 조선인 고등관료의 형성과 정체성―고등문관시험 행정과 합격자를 중심으로」(『역사와 현실』六三、二〇〇七年)
- 全京秀 「学問と帝国のあいだの秋葉隆―京城帝国大学教授論(一)」(『韓國學報』三一―三、二〇〇五年)
- (\*전경수 「학문과 제국 사이의 秋葉隆―경성제국대학 교수론(一)」(『韓國學報』三一―三、二〇〇五年)
- 田炳武 「日帝下高等文官試驗出身の朝鮮人判檢事の社会經濟的背景」(『韓國學論叢』三四、二〇一〇年)
- (\*전병무 「일제하 고등문관시험 출신 조선인 판 검사의 사회경제적 배경」(『한국학논총』三四、二〇一〇년)
- 鄭圭永 「京城帝国大学の設立過程」(『清州大学校論文集』三五、一九九八年)
- (\*정규영 「京城帝國大學의 設立過程」(『清州教育大學校論文集』三五、一九九八年)

鄭駿永

「植民地医学教育とヘゲモニー競争―京城帝大医学部の設立過程と制度的特徴を中心に」

『社会と歴史』八五、二〇一〇年)

( \*정준영 「식민지 의학교육과 헤게모니 경쟁―경성제대 의학부의 설립과정과 제도적 특징을 중심으로」

『사회와 역사』八五、二〇一〇년)

———— 「血の人類主義と植民地医学」(『医史学』二二―三、二〇一二年)

( \*정준영 「피의 인종주의와 식민지의학」(『醫史學』二二―三、二〇一二年)

黄尚翼

「京城帝国大学医学部の朝鮮人学生と教員―消滅した帝国大学が残した後光と自矜心」

『韓日国際WORKSHOP : 帝国の学知と京城帝大の教授たち』ソウル大学校奎章閣韓國学研究院、二〇〇七年)

( \*黃尙翼 「京城帝國大學 醫學部の 朝鮮人 學生과 教員 消滅된 帝國大學이 남긴 後光과 自矜心」

『韓日국제 WORKSHOP : 제국의 學知와 경성제대의 교수들』서울대학교 규장각한국학연구원、二〇〇七年)

その他

高等教育局大学課

「学位制度の沿革と学位授与状況の現状」(『大学と学生』三五五、一九九五年)

石田純郎

「エッセイ 志賀潔と京城帝国大学―朝鮮で医学教育に尽くした人々(下)」(『日本医事新報』四三八五、二〇〇八年)

ウェブサイト

「日本」 国立公文書館デジタルアーカイブシステム <https://www.digital.archives.go.jp/>

国立公文書館アジア歴史資料センター <https://www.jacar.go.jp/>

国立国会図書館デジタルコレクション <http://dl.ndl.go.jp/>

参考文献

〔韓国〕

- |             |   |
|-------------|---|
| ソウル大学校中央図書館 | <a href="http://library.snu.ac.kr/">http://library.snu.ac.kr/</a>               |
| ソウル大学校医学図書館 | <a href="http://prod-medlib.snu.ac.kr/">http://prod-medlib.snu.ac.kr/</a>       |
| 国立中央図書館     | <a href="http://www.nl.go.kr/nl/index.jsp">http://www.nl.go.kr/nl/index.jsp</a> |
| 歴史情報統合システム  | <a href="http://www.koreanhistory.or.kr/">http://www.koreanhistory.or.kr/</a>   |

## 論文の内容の要旨

論文題目 京城帝国大学の基礎的研究

— 日本統治下朝鮮における帝国大学制度・組織とその展開 —

氏名 通堂あゆみ

京城帝国大学は6番目の帝国大学として、日本統治下の朝鮮半島に設立された大学である(1926年の大学本科開学に先立ち1924年に予科が開設された)。開学当初は法文学部・医学部の2学部であったが、1941年には理工学部を増設し終戦時には3学部体制となっていた。本研究の課題は帝国大学としての制度・組織を備えたこの京城帝国大学(以下、京城帝大)が「外地」朝鮮においていかに展開し、先行する「内地」の帝国大学をはじめとする高等教育諸機関とどのような関係を結んだのかを実証的に明らかにすることである。近代日本が築いた社会の諸制度への「外地」からの接続過程や、「内地」・「外地」を跨ぐ高等教育諸機関や学界との相互関係において、京城帝大が果たし得た役割と課せられた制約とを具体的に考察することにより「植民地大学」を論じる土台を構築することを目指す。本研究は開学当初より設置されていた法文学部と医学部を考察対象とし、本編全6章および補論からなる二部構成をとる。

### 第一部 法文学部の制度・組織

第一章「組織・人事・学生動向から見る法文学部」では法文学部法科系講座に着目することで高等文官試験合格者を多数輩出した構造を解明し、多くの先行研究が関心の対象としてきた東洋・朝鮮文化研究とは異なる京城帝大の教育・機能上の特徴を指摘した。これまで京城帝大出身の朝鮮人官僚については批判的な考察対象とされ、その人数の多さから京城帝大は「親日派」養成機関として評価されることもあった。本章では法科系学科着任教員の経歴調査および学科の具体的な課程分析と複合学部の先例とされた東北・九州両帝国大学法文学部との比較作業によって京城帝大が朝鮮社会における社会移動の回路のひとつとして機能したことを論じた。

第二章「朝鮮半島出身者の官界進出」では京城帝大生の高等文官試験受験—官界進出について、いわゆる在朝日本人学生や京城帝大以外の学校を卒業した朝鮮人学生も考察対象としながらより具体的に京城帝大という教育機関の効果と制約とを論じた。大学設立の産婆役となった朝鮮総督府は、高等文官試験合格者に限らず卒業生を積極的に朝鮮総督府に就職させていた。



ごく少数の学歴エリートである京城帝大卒業生は朝鮮統治に関わる政治エリートでもあったが、彼らは京城帝大卒業という同じ学歴を持ちながら、就職後は日本人と朝鮮人とで民族籍の違いにより異なる待遇を受けるという帝国日本統治下の差別構造を体現する存在でもあった。

高等文官試験を経て官僚になる道は「内地」の帝国大学とくに法学部学生にとってはエリート・コースとしてごく一般的に志向されたものである。朝鮮官界においても東京帝大閥は厳然とその影響力を及ぼしていたが京城帝大も朝鮮総督府に卒業生を送り出し、朝鮮半島出身者を多く含む彼らは「純鮮産官僚」と呼ばれ東京帝大閥に対抗する存在として期待されもした。注意したいのはこうした人材輩出機能が大学設立時に積極的に想定されていたものではないという点である。法科系学科の設置はむしろ忌避されたり存在が疑問視されたりするなかで、文科系との掛け合わせとして法文学部という複合学部が設けられ、そこに集められた法学実務家出身の若手教員を中心に人材輩出のしくみが形成されていったのである。

対照的に大学設立計画時には中等教員養成という期待がかけられ、大学の使命とされた東洋・朝鮮研究に従事する教員配置が行われたものの、学生の希望とは必ずしも一致せず制度改編や定員調整を余儀なくされたのが文科系学科であった。

第三章「「傍系的」学生の受け入れから見る法文学部の制度的展開」では文科系学科において見られた、法科系では極めて例外的な存在である「傍系」学生つまり予科や高等学校といった「正系」課程を経ることのなかった中等教育修了者を受け入れるという選科制度の運用実態を明らかにした。予科制度を採ることにより学部本科の入学定員を確保していたはずの京城帝大において、「傍系」学生の受け入れが行われた背景には法科系学科への学生人気偏重があった。選科制度は非予科出身者に教育機会を提供したほか、定員を充足しない文科系学科の定員調整弁としての役割をも持っていたことが指摘できるのである。またこうした選科生は学部の定員を埋めただけではなく、法文学部が期待されていた中等教員養成という人材輩出の側面においても一定の成果を上げていたことを確認した。

## 第二部 医学部の制度・組織

第四章「医学部における「医局講座制」の展開」では医学部独特の講座制すなわち医局講座制の展開を考察することで東京帝国大学を頂点とする医界の序列の裾野が朝鮮にも広がったことを論じた。京城帝大医学部は法文学部とは異なり事実上の前身となる機関（朝鮮総督府医院・京城医学専門学校）を持ったが、京城帝大医学部の特徴はこうした前身との連続性で説明される地方病研究や予防医学だけではなく、帝国大学として講座制が採られ組織が再編されたこ

とによって明らかになった教授間の対立や学位授与を通じた影響力行使にも見出すことができる。とくに臨床医の動向からは東京帝国大学の医局人事の影響を受けた京城帝大医学部も帝国大学医学部的振る舞いを見せるようになること、具体的には自校出身者や医局員を就職させようとする病院や教職を確保しようと朝鮮半島内の新設医院やさらなる「外地」＝満洲方面に影響力を拡大していったことを指摘した。

第五章「博士学位授与機能から考察する医学部の「教室」」では大学の持つ学位授与機能に注目することで、講座ともまた異なる医学部の教室という単位を考察し、これまで存在が自明視されてきた「志賀閥」や「東大閥」といった医学部内派閥の実態を明らかにした。教授が主宰する教室組織は、その内部においては出身校や民族・性別といった差異を解消するかのようないごきも見せた。しかし学位授与にかかわる権力を掌握する教授らの個人・派閥間の対立が学生に不利益を与えるなど、またある一面では医界における医師の序列化を進めたことを明らかにした。

第六章「医師免許保有者の帝国内移動と京城帝国大学」では医学部で研究活動を行った医師免許保有者が京城帝大出身者に限られず、朝鮮半島や「内地」の他医学校出身者をも含むことに注目し、彼らの在籍を可能にした専攻生制度を取り上げることで医学研究機会の実際および博士学位請求・授与をめぐる「内地」・「外地」の大学の相互関係を明らかにした。京城帝大医学部は医師免許保有者に広く研究機会を提供しており、その研究を対象に学位請求が京城帝大に行われたが、京城帝大で行われた研究であっても「内地」の大学に学位が請求される場合もあった。こうした研究成果の移動の方向を決定づけたのも所属する教室すなわち師事した教授の京城帝大医学部内における影響力であった。とくに朝鮮人医師免許保有者にとっては学位請求・取得が「内地」医学校との関係締結を余儀なくされる契機となる可能性が生じており、京城帝大内部の人間関係とはまた別に、「内地」・「外地」を跨ぐ師弟関係の形成をもなかば強制されることになっていたことを指摘した。

このような大学内外で形成・展開された権力関係が突如解消されることになったのが 1945 年 8 月 15 日の玉音放送による衝撃である。学位授与機能を独占していた京城帝大は閉校処理の一部として医学部で研究を行っていた自校出身者や他医学校出身医師免許保有者らに学位請求を行わせ、極めて短時間に大量の学位を認定した。十分な史料的裏付けのないまま「解放博士」「駆け込み審査（による学位授与）」と評価されることのあった終戦後の学位授与実態とその過程を補論「京城帝国大学医学部における一九四五年八月一五日以降の博士学位認定について」で明らかにした。

以上の考察を通じて、京城帝大は必ずしも揺るぎないひとつの実体あるいは統制された組織ではなく、学部や学科によって学生・教員構成の特徴が異なったり学部間・講座間の利害対立が存在したりすることが明らかになった。その組織を支える制度も、大学設立を準備した朝鮮総督府や大学設立委員会の当初の想定を越えて、実情に応じて試行錯誤的に改編が行われたことが確認できる。また京城帝大の営為は日本統治下の朝鮮半島内で完結するものではなく、教員の採用・配置の面ではもちろん、大学で教育をうけた高等教育人材としての学生・出身者の活動や京城帝大が提供する研究機会が「内地」の諸制度や教育・研究機関に結びつけられていたことも指摘できる。教員組織は講座制の運用において、学生動向では法文学部の高等文官試験受験、医学部の博士学位請求においてとりわけ顕著に「内地」／「外地」の非対称的な関係を確認することができるのである。

こうした関係においても京城帝大の組織や構成員が既存の制度や慣行を受け入れ、そこで存在感を発揮することが可能ではあった。しかし帝国日本が形成してきたあらゆる階層構造に後発の帝国大学として位置づけられ、その枠組みから自由ではなかった部分があることは京城帝大に課せられた制約とも言えるであろう。それは「外地」の帝国大学であるということだけが作用したものではないが、個人の努力や能力によりあらゆる制度への接続が可能であるという平等を建前とする制度運用がなされながらも、実際にはその接続がなかば強制的に行われたり、さまざまなかたちでとくに被支配者である朝鮮人が、また場面によっては在朝日本人の活動が「外地」出身であることを理由に制限されたりする側面があったという点に植民地大学としての京城帝大の特徴や帝国日本の朝鮮統治を見出すことができるであろう。

なお本研究で扱うことのできなかつた諸問題については結章において課題と展望を示している。